

謹 弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

児 玉 健 氏 岩国市医師会 9 月 28 日 享年 84

古 谷 浩 司 氏 徳 山医師会 10 月 6 日 享年 87

編 集 後 記

平成 28 年 11 月に四国八十八カ所お遍路を始めた。1 番札所から回る順打ちで、何回かに分けて回る区切り打ちの歩き遍路をしている。現在、23 回歩きに行つて、発心の道場（徳島）、修行の道場（高知）を終え、菩提の道場（愛媛）に入り、40 番札所を通過した。歩いた総距離は約 660km。恐ろしいことに、下関駅から名古屋駅までの距離にあたる。最初は一回に 10km 程が精一杯であった。神山町を通る 12 番から 13 番は 20km 以上あるので、単なる歩きではとても持ちそうにない。気が遠くなる思いをしていると、神山町は枝垂れ桜が有名で、消費者庁が移転して来るかもしれないことが分かり、桜を見ながら、こんな山奥に消費者庁か、と気を紛らしながらなんとか歩けた。この度の中国四国医師会連合総会で神山町の創生についての特別講演が組まれていて、懐かしく思い出した。今までの最高の思い出は、ダルマ朝日が見えたことである。23 番から 24 番の室戸岬までの距離は 75km で 3 回に分けて歩いたが、札所が無い歩きの日が生じる。前の晩、突然、朝日を見ながら歩こうと思ひ立ち、午前 5 時過ぎから歩き始めた。東の空を見ながら歩いていると、小型トラックが止まり、おじさんが大きなカメラと脚立を持って歩いて来て、目の前でセットし始めた。「何を撮るのですか」と聞くと、「日の出を撮る」と言われる。6 時 31 分に出るといふ。毎日 1 分ずつずれて、場所もずれていくとのこと。あと 10 数分、時間があつたが、お付き合いすることにした。東の空の海の上は灰色になっていたの、灰色の上に、太陽が上がって来るものと思つていた。おじさんが「出た」といふので見ると、灰色の部分と海の間に見つ赤な太陽が頭を出してきた。徐々に大きくなると、溶鉱炉の中の鉄のようにドロドロした感じの鉄球に見えた。上昇を続けると海面にも反射して、ダルマ状に見えるようになった。おじさんによると 2 年に 1 回くらいしか見えないものだとのこと。トンネルに入る直前のところであつたので、なんと運の良いことであつたかとおじさんに感謝するとともに、お遍路巡りに感謝した。

感動の出会い生み出す遍路かな

（理事 山下 哲男）